



ルカは、福音書と使徒の働きにおいてイエスキリストの生涯と教会の始まりを著しました。その両方の序言にあたるルカ 1章 1-4 節において、彼は記していることが歴史的な事実であり、いかに信頼できるものであるかを述べています。今日からクリスマスに向かう二ヶ月にわたって、ルカの福音書から救い主の降誕のできごとについてみ言葉に目を向けます。まずはヨハネの誕生について。

① 神は、ご自分の歴史の中に、私たちを生かしておられる

“さてザカリヤは、自分の組が当番で神の前で祭司の務めをしていたとき、祭司職の慣習によってくじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。彼が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。すると主の使いが彼に現れて香の祭壇の右に立った。”8-

“御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。…彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」” 13-

② 神は、小さな私たちを用いて、御業をすすめられる

“二人とも神の前に正しい人で、主のすべての命令と掟を落度なく行っていた。しかし、彼らには子がいなかった。エリサベツが不妊だったからである。また、二人ともすでに年をとっていた。” 6-

“ザカリヤは御使いに言った。「私はそのようなことを、何によって知ることができるでしょうか。この私は年寄りですし、妻ももう年をとっています。」” 18-

③ 私たちは、信仰の葛藤を通して、神をさんびする者とされる

“しばらくして、妻エリサベツは身ごもった。そして、「主は今このようにして私に目を留め、人々の間から私の恥を取り除いてくださいました」と言い…”24-

“エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。そして大声で叫んだ。「…主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」”41-45

◎話し合ってみましょう

- ・ヨハネは、イエス様の道を備えるために生まれました。自分のためではなく、後から来る人のために用いられるという生き方について話し合ってみましょう。